

平成30年度 第3回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成30年11月15日(木) 午後7時00分～9時00分
開催場所	桜町上水会館
参加者	男性 5名 女性 2名 計7名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ (市政報告) 3 懇 談 (1) 小金井市の魅力について (2) フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	(1) 「小金井の魅力 (にしたいもの含む)」 ・ 玉川上水・小金井桜・小金井公園・フリーマーケット ・ 江戸東京たてももの園・小金井 宮地楽器ホール・国際交流 ・ 阿波おどり・人のやさしさ・キャンドルナイト (2) フリートーク ・ 玉川上水の整備について ・ 新庁舎建設後の小金井市のイメージ ・ 駅から小金井公園までの活性化」
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成30年度 第3回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんばんは。本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

座談会を始める前に何点か確認をさせていただきます。はじめに、本日は地元ケーブルテレビ局のジェイコムさんが取材にいらしております。テレビに映ることについて支障がある方はいらっしゃれば配慮いたしますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。あわせて確認させていただきます。懇談の様子を撮影した写真を市のホームページに掲載させていただきますが、こちらもよろしいでしょうか。

それでは、次に配付資料の確認をさせていただきます。まず1点目が本日の次第でございます。2点目がアンケート。3点目が平成30年度市民と市長の座談会資料ということで、小金井市の魅力についてというものでございます。それから、参考資料といたしまして、市の右側のリーフレット「小金井市はこんなところです。」「小金井の坂と遊歩道マップ」、市制施行60周年記念クリアファイル。あらかじめ椅子のほうにご用意させていただいたものは以上の6点でございます。このほかに受付にいくつか参考資料を置かせていただいておりますので、後ほどごらんいただきましてご自由にお持ちいただければと存じます。

開催にあたりまして、事務局よりご説明申し上げます。この座談会は、平成28年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2回から4回程度開催しております。本日は今年度の3回目となります。市民の皆様の率直な意見を伺いたいという趣旨から、原則市民の皆様と市長とのフリートークという形で開催しておりますが、本日は前半については、小金井市の魅力についてをテーマとして皆様からご意見を伺いたいと思います。この後の進め方でございますが、はじめに市長の西岡より挨拶を兼ねまして、簡単に市政報告をさせていただきます。

ます。その後、1時間程度、小金井市の魅力についてをテーマに意見交換を行い、残り30分はフリーテーマということで皆様から自由にご発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただきます。なお、本日終了時刻は午後9時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後については速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

では、次第に従いまして、市長の西岡よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様、こんばんは。市長の西岡でございます。今日は平日の7時からというお時間にかかわりもせず、わざわざこちらの上水会館まで足をお運びいただきまして、まことにありがとうございます。また、今日は手話通訳さんの皆様方にそれから保育士の皆さま方にもご協力いただいております。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

この座談会は先ほど司会からもございましたように、私、平成27年12月に市長に就任をさせていただきまして、2年と11カ月が経過をし、間もなく3年間ということでございます。たくさんの方々との対話をするということで、対話する行政をめざして日々市政運営を行っております。今日のこの会もその一環でございまして、市民の皆様方と市長の座談会ということで、年4回開催させてもらっています。また、さまざまな政策課題についてワークショップを開催したり意見交換会を開催したり、市民説明会を開催したり、時には私もそういった中に参加いたしまして、いろいろな対話を積み重ねています。また、今月は小金井市の最重要課題であります新庁舎と（仮称）新福祉会館の建設の実現を目指しまして、もう5回にわたりまして今月市民説明会を開催いたしました。今月はこういった形での市民の方々との意見交換会はもう6回目ということになり、また、11月下旬にもう一度開催をいたします。

また、今、小金井市は小金井の市立公園のあり方につきまして、ワークショップを開催してございます。こちらは大変多くの方々に活発にご意見をいただき、開催してまいりました。また、市の職員の方々との対話、意見交換、時に

は子どもたちとの対話もとても大事にしてございまして、今、私は小学校9校、中学校5校、順番にお昼に伺わせていただいて、子どもたちと一緒に給食を食べています。とても子どもたちは元気です。私も質問攻めにあいまして、小学校低学年から中学生。中学生になりますとさすがにこちらがどきっとするような鋭いご提言やご意見をいただくこともあります。子どもたちと一緒に給食を食べますと、いろいろなことを感じます。そして今、小金井では小金井の地場産野菜を学校給食14校で積極的に取り入れていただく努力をしております。私が市長に就任する前の平成27年は地場野菜の学校給食の活用率は3.5%でした。昨年平成29年度、2年後に9.89%、約10%にまで上がりました。今年度平成30年度、まだ1年間終わってございませんが、1学期の活用の数字だけ見ましても昨年の約2倍活用していただいているということでございます。食育、そして、子どもたちにはおいしいお野菜を作って、時に農業の体験をしてもらったり、農家の方々に触れてもらう機会もつくってございます。

さて、小金井市の最重要課題は何といひましても可燃ごみの安定的な処理でございまして、日野市、国分寺市、小金井市3市で設立いたしました浅川清流環境組合は、平成27年に設立しました。そして、日野市内におきまして3市民、3市から出される可燃ごみの新しい処理施設を今、日野市域内で建設を進めてございまして、順調に建設が進んでございます。あと1年半後、2020年、オリンピックが開催される年の4月1日から本格稼働。その数カ月前からはいよいよ試験運転開始ということになります。小金井市は平成19年、二枚橋の炉を停止してからこの11年間に及びまして、多摩地域の方々に私たちが毎日出す可燃ごみを処理していただき、ご支援をいただいております。そのことに対する感謝の気持ちを忘れずに、これからもごみの減量にしっかり市民の方々と取り組んでまいりたいと思っております。この小金井市が大変苦しい道を歩んでまいりましたけれども、市民の方々のご努力、ご尽力、事業者の方々のご尽力によりまして大きな成果を上げました。人口10万人から50万人未満、ほとんどの自治体が日本の、数でいいますとここに入りますが、人口10万人から50万人未満の全国の自治体の中で、市民1人当たりのごみの排出量が一番少ないのが小金井市、全国1番です。そして、リサイクル率、つまりごみにせず資源化しているリサイクル率というものが50.2%で、こちらも

先ほどの中では全国2位という数字でございます。ちなみに1位は岡山県倉敷市の54%、小金井市は13品目にわたる分別を市民の方々に行っていただいております。他市から、他県から転入されてきた方々は、小金井の分別の細目化にとっても驚かれる。またこれは小金井ルールということでもありますけれども、しかし、私たちの行ってきたこの努力は、資源循環型社会にとっても重要なことを為していると思います。この流れをとっても大切に私としてはしていきたいと思っていますし、小金井は子どもたちにも分別のルールですとか、小金井で生きていくための環境教育を行っています。

また、最近のトピックスでいいますと今年には市制施行60周年という大変大きな節目の年を迎えさせていただきました。昭和33年10月1日に小金井市は町から市へと移行いたしました。当時60年前4万人だった小金井市の人口は、60年の時を経まして今12万人を超えまして、今もなお微増。昨年10月10日に12万人を初めて超えました。そして、今年5月1日には初めて世帯数が6万世帯を超えました。今、小金井市は12万市民、6万世帯というのが今の小金井市の状況です。全国の高齢化率が28%であるのに対しまして、小金井市は21%であります。大学が多いということや若いファミリー世代の方も多ということも特徴かと思えます。しかし、高齢化は確実に進展してまいります。そして、いずれやってくる人口減少社会というものにしっかり今から向き合っていかなければなりません。一方で、小金井は当面まだ人口は増えていく、そして子どもの数も増えてまいります。東京都教育委員会が最近お示しいただいた5年後の児童・生徒の数、小学校の生徒数は小金井市は19.6%増となっております、三多摩26市で一番増加率の多いと見込まれている自治体でございます。この5年間の間に学校のクラスもおそらく20クラス以上確実に増やさなければいけない状況であります。それはこのまちにとってはやはり子どもが元気なまちが発展すると思っておりますし、この胸にもつけておりますが、小金井市のイメージキャラクターの「こきんちゃん」に込められた宮崎駿監督の思いは、子どもが元気なまちが発展するんですというメッセージをつけてくれていますので、努力してまいりたいと思っています。あわせて今、待機児解消という大きな社会問題に小金井も直面しております。私は小金井市でファミリー世代の方々が仕事も子育ても両立して生きていける社会、地

域をつくらなければいけないということで、この2年と11カ月、全力でまずは待機児の解消、待ったなしの課題に取り組んでまいりました。2,007人だった平成27年度の保育園の全定数、平成21年、0歳から5歳、中には小規模保育もごございます、多様な保育園もありますが、全保育園の保育員定数が2,007名でございましたけれども、来年平成31年4月には3,000名を超える定数になりますので、1,000名の定員増を図ったということになります。しかし、それでもなお、なかなか待機児童が解消されない。特に1歳児が極めて待機児の数が多いので、この1歳児対策ということにこれからもしっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。ただ一方で、育休制度の延長ができるようになった一方で、この保育園の入園と課題がございまして、このあたりをこれからの国の制度改正も願っておりますけれども、いずれにしましても、小金井で育つ子どもたちが元気に育っていただけるまちをめざして頑張りたいと思っています。課題は本当に山積してございますけれども、そういった課題にしっかり向き合って、小金井を持続していける、いいまちにしていきたいと思っています。

今日は前半は小金井市の魅力発信、小金井市の魅力をどうやって高めていったらいいのだろうか、どういう小金井の魅力を市内外の方々に伝えていったらいいのか、その伝え方はどうなのか、シティプロモーションなどの観点から、皆様方といろいろな意見交換をさせていただきたいと思っています。そして、後半ではフリートキングということで、皆様方のご関心のあることや、何か要望事項ですとかございましたらぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っています。魅力発信ということでいいますと、私もこれは市長としてたくさんやらなければいけないことになりますけれども、市のPRをしていくというのは私が先頭に立って頑張らなければいけないと思っています。まだまだ道半ばですし、至らない点も多々あります。ジェイコムさんも今日は取材に来ていただいておりますけれども、ご協力もさせていただいて「長つと散歩」という番組もつくっていただいて、私がレポーターとなって小金井のいろいろな魅力を取材をし、多くの方々に伝えていけるように今努力をしていたり、あるいは今日来ている広報担当職員ともども市報こがねい、ホームページ、ツイッター、また入り口では今日は市の歌が流れてきておりました。そして今は画面が消え

ていますが、先ほどは初めてつくった市のプロモーションビデオ、これは学生さんと一緒につくりました。市制施行60周年ということで、さまざまな魅力発信にも取り組んでまいりました。小金井市は、私は東京の中央部にある、中央線2つの駅を抱えている、そして自然が大変多い、大学も多い、都市農地もある、すばらしい経験を持った活発な市民の力がある、地域の力もある。このまちにはすばらしい資源がたくさんあります。私は常々、人間ですから私もないものねだりをしたくなります。しかし一方で、このまち小金井市にはいつもあるのでついつい、いつもあるから、その魅力を見失っているというよりは当たり前のよう感じているんですが、それが無い自治体、それが無いまちにとってとはとてもうらやましいと思われるような魅力や資源がたくさんあります。私はないものねだりよりもあるもの探しをしましょうということ呼びかけています。そして、あるものに磨きをかけていくということを今私は主張してございまして、ないものねだりよりもあるもの磨き、あるものに磨きをかけていくということを今努力しています。その具体例の1つといたしまして、小金井市には大学がたくさんあります。そこには学生が毎日通い、そして、大変最先端の研究をしている先生たちがいらっしゃる。そして、大学の広大な敷地があり、ハード面、ソフト面、人的にも大変恵まれた環境を持っている大学がございまして。私はこの大学との連携というのをとても重要視してまいりました。おかげさまで6つの大学と包括的協働連携協定を締結しました。市内の4大学とは全ておかげさまでやっと締結が終了しました。まず東京学芸大学、農工大工学部、総合学院テクノスカレッジ、これは前原の坂下にあります。そして法政大学、4つの市内の大学です。そして近隣にございまして亜細亜大学、武蔵野大学、この6つの大学と協定を締結し、今さまざまな分野で連携がスタートしました。お互いにウィンウィンになるような、お互いの連携がとれるような取り組みをこれから進めてまいりたいと思っております。例えばですけれども、小金井市はスポーツ施設が非常に脆弱だという指摘をいただいております。そんな中で総合学院テクノスカレッジの皆様方からは、民間から初めて施設をお借りしました。体育館を土曜日、日曜日、祝日に全日ではないですけれども、月の半分から3分の1程度になりますが、月に6回あるいはもう少し多いと思います。1日3時間刻みで総合体育館と同じ料金体系になりますけれども、貸し

出しをしていただけることになりました。これはよかったと思っています。施設を市民の方々に利用していただく。また一方で、私たちができることという
と、これも例えばですけれども、先ほどのプロモーションビデオ、これは総合
学院テクノスカレッジの放送芸術学科、映像をつくったり、映画の世界、ドラ
マをつくったりという世界をめざしている若者が学んでいます。この方々に小
金井市のプロモーションビデオを若者の視点でつくっていただきました。学生
さんにとっては自治体の公式のプロモーションビデオと一緒につくれるという
のはとてもよい経験になると思います。これは私は学生の若いうちからの市政
の中にどんどん協力してもらいたいという考えから、こういったことも行って
いただきました。まだまだスタートしたばかりですけれども、大学の魅力とい
うもの、人材を小金井にもっともっと取り組んでいく。今、既に審議会ですと
かさまざまな場面で大学の先生方にお世話になっていきますけれども、もっとも
っと努力していけたらいいと思っています。また、大学生の方々には将来地方
公務員や行政で働きたいという方々には、市役所のインターン生として仕事を
してもらっています。夏休みには学生が来られて、いろいろなところで経験を
していただきました。こういった取り組みも進めていきたいですし、若い方々
にこのまちのことを知ってもらったり、市政にかかわってもらったりするとい
うことは、結果としてこれも1つのシティプロモーションにつながっていくの
ではないかという考えを持ってございます。そんな中、今日は皆様方からいろ
いろなご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いま
す。

3 懇 談

○司会者

恐縮ですが、ここからは着座にして進行させていただきます。

では、これより意見交換に入りたいと存じます。本日のテーマについて事務局より説明いたします。テーマ、小金井市の魅力について、と書いてある資料をごらんいただきたいと思えます。こちらの用紙になります。現在、全国的に少子高齢化が進んでおり、小金井市の人口は今はまだ微増傾向にあります、

近い将来は減少に転じることが見込まれております。4年前の2014年5月に全国で896の自治体が消滅の可能性があるとして報告されたことを記憶している方もいらっしゃると思います。そのような状況の中、持続可能なまちであるため各自治体でシティプロモーションに取り組んでいるところです。シティプロモーションとは簡単にいいますと市の魅力を市内外に広く発信することです。そして、その発信は市内外へという言葉からわかるとおり市内と市外の2つの方法があり、それぞれ違う効果を期待しているところです。まず市内に向けての発信は、地域への誇りや愛着、すなわちシビックプライドを醸成することにあります。資料のほうにも記載いたしました。シビックプライドとは単なるまち自慢や地元への親近感ではなく、市民一人一人が地域を構成する一員であることを自覚し、その地域をよくしていこうとする当事者意識を伴うものと一般的に解されていることです。今回参加していただいた皆様は、そういった意識のもとに参加していただいているものと思っておりますが、全ての市民の方がそのような意識を持たれているとは限らないと思っております。そこで、市内に地域の魅力を発信することで、今よりもっと小金井市を好きになっていただき、それによってずっと住み続けたいと思うとともに、自分の住むまち小金井をよりよくしようとする意識を醸成する、それが市内に向けた情報発信の萌芽として期待しているものです。一方、市外に向けての発信は、小金井市の知名度の向上、すなわち多くの人に知ってもらい、交流人口の増加を図る、言いかえればたくさんの人に小金井市に来てもらう。実際に小金井市に来て、小金井市のよさを実感し、小金井市に住み続けたいと思ってもらう。さらに市民となった方がシビックプライドを持ってさまざまな取り組みにかかわってくれるという好循環が市外に向けた情報発信の効果として期待するものです。資料の裏面をごらんください。本日、小金井市の魅力についてをテーマに座談会を開催したのは、私どもがシティプロモーションに取り組むに当たりまして、皆様のご意見を参考にしたいということが目的でございます。現在、市ではシティプロモーションを効果的に推進していくために、シティプロモーション基本方針の策定に取り組んでおります。策定に当たっては市民意向調査や学生アンケートなども行っているところですが、それにプラスする参考資料として、皆様のご意見を伺うものです。参考にお聞きしたいことの1つは情報発

信する内容です。どんなことでも構わないので、皆さんが小金井市に住んでいていいなと思っていること、他の自治体の方に自慢したいことなどについてお聞かせいただきたいと思います。そして、もう1つは情報発信の方法です。どんな方法で情報を発信したらよいか、今、市が発信している市報、ホームページ、ツイッターについての改善点の提案、あるいは全く新しい方法での発信など、実際にそれが市として実施できるかどうかという点は、私どもが改めて検討しますので、実現の可能性は気にせずに思いつきレベルでも構いませんので、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。最後になりますが、資料の一番下に60周年記念の記念動画の紹介を記載しております。こちらは開会の前にあちらの画面のほうで流していたものになります。シティプロモーションの一環として作成したPR動画で、先ほど市長の市政報告のほうからもありましたが、市と連携協力関係にある東京工学院専門学校の放送芸術科にお願いしてつくったものでございます。説明の方は以上になります。それでは、初めに内容についてのご意見のある方は挙手をお願いします。

○市民A

内容ってどこの内容ですか。

○司会

市の魅力としてPRしたい内容について、皆様からご意見をいただくというのが最初の……。

○市民B

緑町の住民のBと申します。よろしく願いいたします。

本日は私もふだんから関心を持って、いろいろなところで発言させていただいた内容について、ここで市長にお話をさせていただくつもりで参ったんですが、それは後ほどにいたしまして、このテーマについて1つ話させていただきたいと思います。後に話したいことと若干関係があるんですけども、魅力というところにおいてないものねだりではなく、あるものということでお話がありましたけれども、まさにあるものとしては例えば玉川上水。これは皆さん実

態というか、あるいはその姿をどれだけ把握されているのか、私は常々思っているところがあります。それは植物がたくさん生い茂っています。それが当たり前の姿だと思っておられる方が非常に多くなっています。これは私ども地元の住民からすると大きな迷惑であり、間違いなんです。あつてはならない植物が繁茂しているわけです。それを自然の一部、一端だと。それはこの東京にらしからぬ姿だとして映って、緑だ、自然だ、ありがたがっていると。そういうようなことのまず発端となったのは、東京都水道局が50年間にわたりこの流れを放置したことにあります。そのために植物が繁茂して、今のようなジャングルのような状態になってしまいました。その姿しか知らない若い人たち、あるいは外来の方々からすれば、それが当たり前の姿と映るわけです。本当はこれは人工物であり、江戸のまちの水道を供給するための施設だったわけです。そこには水を濁らしてしまうといけないようなものがあつてはならないわけです。ですから、水路の周辺におきましては、例えば何か変なものを流したりとか汚すようなことがあつてはならないわけですから、監視の目がきくように植物など目をふさぐようなものはほとんどない状態になっていました。ですから、水路が丸出しのような状態だったわけです。それが本来の姿であるわけなんですけれども、そこに桜の木が植えられました。それはその時代においては桜というものが非常に重要視されていて、しかも桜自体が水をきれいにする、清浄する力があることに着目して、桜を植えたという経緯があります。そこまではよかったんですけれども、その後、アジサイが植えられました。これは桜だけでは寂しいということで、そう考えた方が苗を持ってきてここに持ってきて植えたわけですけれども、そうしているうちにいろいろなものが生えるようになりました。アカマツだとかそれはもともとあつたものもありますけれども、そういったものがどんどん増えてきている中で、約50年ほど前に東京都水道局が玉川上水を水道として利用しなくなったというところに端を発して、今のような姿になってしまった。まさにジャングルに隠れている玉川上水を丸裸にして木一本たりともないような状態、これが1つの考え方だと思うんです。そこに歴史的な文化遺産となり得るものが隠れているわけです。これはまさにあるものねだりなんです。そこにあるんです。ところが、その姿を雑多な植物が隠しているわけです。これは1つの考え方として私は提起したいと思っています。

また情報の発信の方法、これは非常に重要だと思っています。というのは今の若い方々は今のジャングルの姿が当たり前だと思っています。これを切るとなったら、伐採、剪定するとなったら当然、自然を破壊する行為だと映るわけです。そうではないんだということをしっかり踏まえて情報を発信していく、あるいはそれを認知していただく。こういったことにしっかり力を注がないとまずいと思うんです。これは玉川上水に限りません。あるものをしっかり宣伝していく、それを小金井の魅力として位置づけていくならば、特定の観点、視点だけでもって魅力などを語ったらだめだと思うんです。そうすると偏ったことをしでかして、悪い影響が出てくると思います。そうならないためにもきちんと多角的な視点で検証して、あるいは専門家だけに頼らず、住民の方々の意向をしっかりと反映する形で魅力というものが何なのか。魅力の真の効果をつかみ出す必要があると私は思っています。

以上です。

○司会

今、玉川上水について、市の魅力ということをテーマにしてありますが、歴史的文化遺産というようにお話もあったところがございますが、皆さんもご存じかと思えますけれども、玉川上水については国の史跡に指定をされているものでございます。先ほどの桜が植えられたというようなお話をいただきましたけれども、桜並木につきましてはヤマザクラ並木です。こちらも国の名勝に指定されているものでございます。こちらにつきましてはまさに歴史的文化遺産ということで、名勝小金井桜を復活させようというような取り組みも市で行っているところがございます。その辺につきましては市長のほうからお話をいただければと思います。

○西岡市長

今、ちょうど私は明治時代の写真を持ってきました。これは市制施行60周年記念で4つのクリアファイルをつくりまして、今、毎日使っております。今、Bさんから話がありましたようにこれが明治時代。おそらく江戸時代もこれに近かったんじゃないかと思われま。玉川上水は当時の江戸の市民の方々が暮

らしていた貴重な水源の1つ。江戸に向かって6つか8つぐらいの水源があったと聞いてございますが、そのうちの多摩川の水を羽村から引っ張ってきました。この玉川上水そのものの価値があると思っています。この時代にこれだけの距離の水を引き、そして江戸まで届けた。この土木技術はすごいと評価されている専門家や学会の方がいらっしゃいます。人によってはこれは世界遺産に匹敵するんだとおっしゃっている方もいらっしゃいます。これは大変な文化遺産です。そして280年前、ご指摘のように川崎平右衛門さんという方が新田開発をなさった。徳川吉宗公、大岡越前守の命を受けて、その荒れた土地を畑にして、穀物ができるようにする。当時、財政再建の一環として新田開発が行われましたが、相当大変な大事業だったと聞いてございます。この新田開発をなし遂げた川崎平右衛門さん、府中の押立出身の方でございますが、諸説ありますけれども、この玉川上水に桜を植えました。1つの説としてはこの桜の花びらが当時毒消しになるのではないかとされていて、飲み水を浄化してくれる、そう信じられていたと。それから、桜を植えるとたくさんの方が集まるので、土手を踏み固めてしっかりとしてくれたのではないかとということ。もう1つは、にぎわい。新田開発を一生懸命頑張った方々に対してお礼ではないですけども、桜を植えてこのまちの発展に活用してほしいと、いろいろな願いが込められていると聞いてございます。今の状況でございますが、今、私が小金井市として、市長としてめざしている姿は、東京都と連携をしまして玉川上水整備活用計画というものをつくりました。そして、小金井桜は武蔵野、西東京、小金井、小平、6キロメートルにわたります。当時一番最盛期で1,400本あった小金井桜は今885本程度になっています。ご指摘のように数十年間、しっかりとした手入れが行われなかったというのはあったと思います。その後、さまざまな方々のご努力、280年間も守り抜いてきたというこの大変な遺産。考えてみますと小金井市の誕生はこの桜にかかわります。武蔵小金井駅ももともとはこのお花見を見る方々のための臨時の停車の駅として大正13年にできました。同じ大正13年に国の名勝になります。武蔵小金井駅が誕生したのはその2年後。ですから、桜があったから武蔵小金井駅は今の場所に誕生した。そして、川崎平右衛門がいらっしゃって新田開発をなし遂げていただいたので今の道があるんだと思います。もし川崎平右衛門がいなかったら、また違った

歴史をたどっていたのかなと思います。今何を為すべきかです。まずはこの6キロメートルにわたる桜はしっかりと将来世代に残していきたいと思います。一方、ケヤキや樹木などがかなり乱立をしてしまいましたので、桜にとってはとても生きにくい。日照がなかなか当たらない、栄養もとられてしまう。ケヤキの樹勢は極めて強いです。またいろいろな樹木が生えています。また一方で、ケヤキが崖から、横から生えてきまして、これをずっと長い間放置されてしまった。で、もう崩落寸前の状態にもあります。それで私も東京都議会議員時代にもこの計画にかかわったんですが、やはりまだ桜がちゃんと生きられるゾーンにここはしたいと私は思っています。なのでモデル区間640メートル、まず第一陣で決めまして、ケヤキや樹木などかなり伐採しました。相当な数を伐採いたしました。伐採した結果わかったのは、今でも本当に乱立しているんです。人間の手を入れていません、いろいろな樹木が生えています。これをとりましたので、ちょっと桜が残ったんですが、北側も桜は全部北側に、こういう弓なりの状態で桜が生えていました。南側の桜も南を向いて片側にしか枝を伸ばせていない。切ったのでわかります。弓なり状態でこういう形で成長するわけですが、それが全くできていなかった。桜にとっては非常に息苦しい環境だったと思います。ですから、桜を中心として、そして桜に悪影響を与えない範囲での樹木の矯正というものを、桜を中心とするのが大事なところですが、桜がしっかり生きられる。今やっていることはそういったモデル区間をしっかりと整備するとともに、枯れてなくなる、そういう桜がいっぱい誕生してしまって、1,400本あったものが今は885本ですので、補植を続けています。その苗木をつくっています。小金井桜というのは奈良県の吉野というところと、茨城県の桜川というところの当時の日本の有名なヤマザクラだけを集めて植えました。ですから、一大ヤマザクラ集大成群みたいなんです。ですから、一つ一つの種類はみんなばらばらです。みんなヤマザクラです。ですから、花の色も咲く時期も全く違います。そして、接ぎ木をして育てたりいろいろしていますが、どんな桜が誕生するかわからないというのがこの専門家の方々にあるようでございます。いずれにしても、これも小金井市の最も象徴的な魅力なので、先ほどご意見としては全てを丸裸にというご意見がありましたが、そこはなかなか私としては難しいなと思っていまして、今ここに写真がございますよ

うに、この桜と今ある桜に影響を与えない範囲の樹木や、また後から植えたアジサイというのは友好都市の三宅島から贈っていただいたガクアジサイというアジサイを植えさせていただいてございます。そういったものがしっかり共存できる。一方で、玉川上水の景観もしっかり見える、そういうものを私としてはめざしていきたいなと思っております。ただ、今のこの整備のあり方というよりは、私としてはこの玉川上水と小金井桜の魅力は小金井市の魅力ということで、これからも後世にちゃんと残していきたいという。また、市民の方々にもっと知っていただきたいと思っております。

○司会

今、玉川上水、小金井桜、それに伴いまして川崎平右衛門という魅力をいただきました。続きましてほかの方から。

○市民A

実は恥ずかしいんですけど、小金井では、私も毎朝散歩していて、桜の中がともかくひどい雑草だらけで、もうどうしても我慢できなくてあの中に入って、私は3年間ぐらい雑草をずっととっていたんです。多分、小金井橋の角から100メートルぐらい。それから、手前の道路の脇にあそこは実は工事業者が昔、土管とか石ころを植えたままで、せつかく市が木を埋めたでしょう。あれも全部枯れちゃったんですよ。それで私は多分3年間ぐらかかったと思うんですが、全部石を掘り起こしてきれいにして、その後、自分なりになんかきれいになりたいと思ってどこかの家で非常にいい草だったんですけども、捨てるのがもったいないので、同じあれだったらきれいになるかなと思って、今は個人がばらばらにやっています。あれが嫌だったものですから全部やった。ところが、全部抜かれちゃったんです。それともう1つ、私が入るたびに水道局のほうから看板が出て無断に入ってくれるなど。私はそのときにまず思ったのは、怒って水道局に何回も行ってこれはきれいになると。ふだん草ぼうぼうだらけで何でいいのかということと、史跡、史跡と言うけど、実際に今あの方も言ったように史跡は見えないわけ。私はそれはおかしいと大分言ったんですけども、結局、私も根負けしちゃって腹が立って、私がきれいにするのと皆さん通る方が

お礼を言うんです。きれいにさせていただいてありがとうございます。何回も言われるんです。僕も気持ちいいから、いいことしていると思ったら、いつの間にか僕は犯罪人みたいになっちゃって。それから、水道局ではやっていないかというとなんなことはなくて、年に二、三回はちゃんと雑草をとっているんです。ところが、雑草というのはすぐ生えちゃうんです。それで私は水道局は税金でやっているわけですから、私は基本的におかしいと考え方を改めてほしいと思っているのは、住民が自分の近所をきれいにするのは、住民の責任だと思っているんです。それを僕みたいなばかな人間が、一生懸命やっているのを犯罪者扱いするというのは何事かと。私だっていつまでできるか、年ですのかわかりません。もう1つ僕が心配しているのは、今、労働力不足でしょう。仮に業者だってかなり外国人が入っていますけど、一体いつまで草をとる作業ができるのかも将来考えていかなければいかんと。僕は一番大事なのは住民が自分の家の近所ぐらひはきれいにするという感覚で周囲の環境をきれいにするというのが絶対に必要だと思います。それをぜひ言いたいということと、私も苦勞した割には報われなくて、自分が悪いことをしているような気になって、ついにやめざるを得なくなっちゃった。それから、もう1つついでにだけ、鉄柵があるでしょう。あのままだと僕はあまりにもあれだと思ってアサガオを100メートルぐらひ植えたんです。そうしたら物すごい評判になって、わざわざ小金井市の外の人が見にくるぐらひきれいになったんです。それも全部抜かれちゃったんです。要するにここは史跡のところでアサガオなんか植えちゃいけません。ちゃんと看板も立てられて、僕もさすがに強引に頑張ったんですけど、エネルギーなくしてもうやめましたけども、あの鉄柵だったって僕はアサガオをずっと植えたら、日本の特に夏なんか散歩するのに気持ちいいと思うんですけど、人それぞれですけども、そういうことがあったということをお伝えしたいです。

○司会

今、住民の方が近所の清掃をするのはあるべき姿だというお話をいただきました。まさにこれは私が説明したシビックプライドというものなのかと思っています。住民の方々が自分たちのまちをよくするために活動していただく、そ

ういったことがシビックプライドなのかなと思っております。今、アサガオを植えたというようなお話もいただきました。それも新たに育って魅力になっていけばいいものかと思う半面、先ほどご説明いたしましたとおり市の史跡なり名勝なりに指定されている、文化財に指定されているものは文化庁の許可がないと改変ができないという現状もございます。その辺は難しいところかと思いますが、その辺について市長から何かご意見あればお願いします。

○西岡市長

いろいろ気にかけていただいてありがとうございます。いつごろまででしょうか、昭和戦前ぐらいまででしょうか、おそらくこの沿道の管理はみんな近所の方々がやっていたと思います。しかし、都市化の流れの中で管理というのがあります。史跡に指定された。今、司会からあったようにここにまつわるお役所行政の関係といたしますと、多分8つぐらい。文化庁があつて、東京都の中に水道局、教育庁、建設局、小金井市、まだあつたと思います。ここに小金井公園の正門の前に跨線橋がございました。あそこは防災、いざとなったときには階段は非常に不便なので、また景観にも問題があるから、この跨線橋は撤去して橋をかける、人道橋をかけましょうと。乳母車を引いた方や車椅子の方もいざとなったときに広域避難場所に。私も東京都議会議員としてこの事業に大いにかかわったんですけれども、小金井市はこれを実現させるために担当職員の方々は大変ご努力されました。いろいろな局との調整があつて、とても大変だったんです。市民の方々に身近な公共施設を守ってもらう。今、司会からありました市民協働、市民参加、最終的にはかかわっていく、守っているんだという誇りといいましょうか、シビックプライドみたいなものにつながっていける分野はあつたほうがいいと思います。ただ、この玉川上水は桜を守っていこうと、この桜を保全していこうということに関しては、東京都と地元自治体と市民団体とで協働してやっています。日常の管理といたしますとまだまだそこまでいっていないのが現状です。今、私が1つの事例としてめざしたいのは公園の管理。小金井市も正確な数字を忘れましたが、市立公園だけではなく開発公園、提供公園といった小さな公園でいいますと数百あります。たしか200後半だったと思います。これは維持管理費も正直申し上げましてかなり

の費用になりますし、まだまだ足りてません。いくつかの公園は市民の方々に守っていただいています。そのモデル地区となるのがおそらく梶野公園、東小金井駅北口の大きな公園は市民のボランティアの方々によって運営してもらっています。もちろん市の行政も入っております。また、全てではありませんけれども、花壇の管理なんかをお願いしているところもあります。私としては、玉川上水はこの場所で今すぐに自由に市民の方々が出入りをして、相当管理までは今トータルでできないところもありますし、何を残して何をとっていいかという整理なんかもあると思うんです。ただ、1つ言えることは外来種がかなり飛来、種が飛んできて、これは野川にもたくさん外来種が入ってしまって、これはボランティアの方々が一生懸命抜いています。毎週のようにです。これはどんどん入ってきます。その外来種というのは地域にも繁殖してしまうとあまりよろしくないものです。そういったことも含めて今すぐ玉川上水というのはなかなか私も難しい点がありますが、公園の管理あるいは野川の雑草とりなども含めて進んでいっている部分もあるので、とても大切にしていきたいと思っています。

○市民A

今の件でしゃべっていいですか。3年ぐらい前、桜の会の方に聞いたんですけど、上水の中の桜の木を手入れしようと思ったら、桜の会の方がそれはだめだと言われたとあって、今でもそうですか。

○西岡市長

そうですね。だめだというか、東京都と地元自治体と市民団体の方々とでいろいろ話し合い、協議を持ちながら進めていますから、その枠のスキームの中であれば大丈夫だと思うんですけども、それ以外のことになるとやはり東京都の教育庁との調整というのがあるかと思っています。

○市民A

桜の会はある意味、専門家です。

○西岡市長

だと思います。

○市民A

彼らが一生懸命苗を植えて、ああいう人たちまで拒否するというのはちょっと、私が拒否されて当たり前、それは本当におかしいと思いませんか。

○西岡市長

わかりました。ご意見として承ります。

○市民A

ぜひそれはおかしいと思います。

○西岡市長

樹木医さんですとか東京都教育庁のほうが小金井桜全体の管理を担っていただいているので、おそらくそのすみ分けというところで、両者の思いが何とか善意で直したいという思いと管理をしている教育庁との間での若干のずれ違いが。

○市民A

私は教育庁に手紙を出したんです。ところが返事も来ない。ちゃんとおかしいということで、何で返事来ないんですかね。

○西岡市長

小金井桜を管理している方々からもいろいろとご意見は賜っています。

○市民A

そうですか。

○司会

玉川上水についてはよろしいですかね。

○市民B

私は小金井市に引っ越してきたのは、杉並区から昭和28年にこちらに来たんですよ。そのころはあそこの土手、あそこには桜の木しかなかったです。お花見は全てあそこの土手でやってました、小金井公園の中じゃなくて。小金井公園はまだなかったんです。ですから、全部そこでどんちやかだんちやか飲んだり歌ったりやっていました。それでもあしはきれいになってましたけれどもね。それが今は本当に雑然としています雑木が、ケヤキでしょうかね。桜のほうに負けています。あれは小金井市も管理の1つに入っているんでしょうか、東京都が管理ということなんですね。あまり勝手にはできないでしょうけれども、東京都はお金があるんだからもうちょっとしっかりやってほしいと思います。

○西岡市長

先ほども申しあげましたように、モデル区間の640メートルが第1次、今はもう第2次、次の状況に入っていますが、桜の樹勢に悪影響を与えているケヤキなどを伐採してまいりました。私も市民の方々から一方で、大変お叱り、厳しいご意見をいただきました。市の花は桜、市の木はケヤキです。小金井市の木はケヤキ。市の花は桜、市の木はケヤキ。その市の木のケヤキを切るとは何事か、けしからん、あつてはならんということで大変厳しいお声をいただきましたし、意見交換会にも出たことがあります。先ほども申しあげましたように、この玉川上水の6キロメートルの区間は、玉川上水は羽村から最終的に流れつくところまで、長い距離ですけれども、この6キロメートル区間は桜を守るゾーンと管理総合計画では位置づけております。これを残していかなければいけない区間と思っているので、そして、このまま何もしない、放置をすると桜はいずれ枯れてなくなってしまいます。それはあまりにも寂しいことです。好き好んでケヤキを切っているわけではございません。山もそうですけれども、人間の手がある程度入らないと木もすくすくと育たないという状況もございます。そういう意味で今のご意見は私としても大事にしたいと思いますが、また

一方で、自然を今の樹木、緑を守っていくというその姿勢も守っていただきたいという声もあるので、先ほど申し上げましたように桜が伸び伸びと生きられる環境プラス共生できる植物、樹木など、あるいは歴史的なものについても残していくという姿勢でいくのが、私としてはいいところかなと思っています。ケヤキは大分切りました。それはもうこの桜を守っていくためには、これは必要な判断だったと思っています。でなければ、桜が最後に死んでしまいますので。

○市民C

西の方ですね、そうすると傷みが全然違うんですね。

○西岡市長

沿道の方々からは桜もそうかもしれない、落ち葉なども長年悩まされてきたということでは、いろいろな意見があります。風通しがよくなった、日当たりがよくなった、落ち葉が少なくなった、玉川上水の景観がよくなった。一方で風が強くなった、いろいろなご意見がございます。

○司会

玉川上水、小金井桜についていろいろご意見いただいているところですが、また別の方からお手が挙がっておりますので、次の話のほうもお願いいたします。

○市民D

今、ケヤキが小金井の木とおっしゃったけど、ケヤキを自治体の木にしているのは国分寺じゃないですか。小金井もそうですか。桜が衰退してケヤキが伸びて、確かに人間が見て景観がよろしくないというんだけど、桜の寿命というのは大体60年ぐらいだと思うんです。だって光華殿に1番近い、光華殿に向けて左側の小金井に一番近い桜の木は僕なんか小学校に上がった年に、直径5センチぐらいの苗木を植えて、丸太で添え木をつけ、下の土はまだ固まっていない状態で、散歩して先生に連れられていったらそういうのが桜だった。そ

れを毎年見ているんです。だんだん大きくなって、今はもう2人で抱えても抱え切れないような大木になっている。ただ、そこへ最近、寿命ですから、桜というのは60年ぐらい。樹木医が入って桜の木の周りに植物を植えて草があります。ああいうふうに樹木医が入らなければ、もうあれはなくなっているんです。玉川上水の桜もある程度寿命があるんです。江戸時代から今まで残っている木はあり得ないです。米軍が五日市街道を軍用道路にして、排気ガスなんかも今みたいにトヨタかホンダが一生懸命排気ガスが出ない車を発明して久しいけど、米軍のまだ今から考えて旧式な自動車ですら排気ガスをまき散らして走ってた。桜もたまったものじゃないです。60過ぎて、しかも排気ガス浴びて枯れますよ。上水の土手をきれいにして非常にありがたいですが、あれは危ないですから。お花見やっているときでも、僕は子どもで行ったけど、玉川上水は竹のさおがだつと置いてあるんです。誰か落ちたぞという竹ざおで落ちた人を拾って引き揚げて、そんな時代だったんです。

○市民A

水がすごかった。僕は学生時代に恐ろしくて。

○市民D

水深4メートルなんで、だから飛び込みたがるんです。

○市民A

今は水はほとんどないもんね。

○司会

玉川上水、小金井桜について数々ご意見いただいているところでございますが、ほかの内容で小金井市の魅力について、何かご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○市民A

あります。いいですか、1つは最近、公園に行きますと、昔は公園は結構土

日は静かだったと思うんですけども、今は普通の日でも人が多くてすごいです。遊園地みたいになっているんです。それは非常にいいことなんですけど、あれだけ人が集まりながら、うまく市の中に流れてないと、あれを何かしないともったいないなと思って。ところが、考えてみると駅から公園までの間に魅力のあるお店があまりにもないですよ。何かもうちょっと専門家入れて、途中で人が降りて歩いて駅まで行くような何か仕掛けがあれば、もうちょっと市のあれに役立つんじゃないかなと思って、それが1つ。もう1つは、私は大学生の就職相談を長くやっている人間なんです。それで最近、急に今までは日本人の学生を面倒見たんですけど、最近、留学生がどんどん増えてきて、その相談に乗っているんですけども、最近ご存じのように政府も留学生をもっと入れようとしていますけれども、実は留学生は非常に孤独なんです。最近の若い人は日本人の学生がなかなか親しい友達になってあげていないです。非常に今の留学生は友達ができなくて困っている方が多いので、これだけ大学があるわけですから、小金井市から何かそういう留学生のためのコミュニケーションをとるような秘策を考えると、小金井市だけじゃなくて1つのモデルとしていろいろなことができるんじゃないかと思っていますので、ぜひご検討いただけないかと思っています。

○司会

今、2つのご意見をいただきました。まず1つは公園、遊園地のようにしているというお話で、皆さんご存じのとおり、小金井市には大きな公園がございまして、小金井公園、野川公園、武蔵野公園と3つ都立公園があるところです。それぞれ特徴がありまして、武蔵野公園、野川公園につきましては、遊園地というか、遊具というよりは自然をそのまま親しめるような公園になっていまして、おそらく今おっしゃられたのは小金井公園だと思います。そちらはせっかくにぎわっている中で、そこに駅から行くまでの途中で魅力的なお店があればというようなご提案かと思います。もう1つのほうが、大学生、外国人留学生が孤独でいらっしゃるということです。市としても国際交流という部署があって取り組んでいるところではございますが、まだまだその辺が足りていないということかと思います。その辺につきましてまず、最初の公園、途中のお店

についてということで、市長のほうから何かお話があればと思います。

○西岡市長

ご指摘のように今、小金井公園はものすごい人です。本当に土日祝日行きますとすごいですね。小金井で子育てしている方々のかなりの方々がそりを持っている、登竜門といいましょうか。みんなそりに乗る。江戸東京たてもの園というとてもすてきな建物の博物館がございます。私は小金井市内のいわゆる観光の最大の場所というのは、江戸東京たてもの園かと思っています。小金井公園には多様な目的でたくさんの方々が小金井公園にお越しになります。そういった方々をもっと小金井市のまちとつなげて地域経済の活性化につなげていくべきではないか。そして、そのつないでいくために例えば途中に魅力のあるお店やスポットを誘致したり開設したり、それはもう本当に大切なご意見だと思います。たてもの園はこれから2020年、オリンピック・パラリンピックがもうまもなくあと1年と半年ぐらいです。たてもの園にももう既にたくさんの方々が来られています。私もイベント行事が多いので月に2回ぐらいは必ずたてもの園に行きます。昔と違って本当に外国の方が増えました。日本の方のみならず小金井公園に来た方々と小金井のまちとをつなぐということに、今は商工会の方々が中心となっていていろいろ取り組んでいます。しかし、もっと取り組んでいかなければいけないと思っていますので、ここはいろいろと私もアイデアを市民の方々からも出していただきたいですし、これは商店街や地元のお店や沿道の方々のご協力も必要になってくるかと思っています。最近、その一助となっているのが武蔵小金井駅と東小金井駅に非常にお安く借りれるサイクルという折り畳み式自転車が、ピッとSuicaをかざすとすぐ乗れて、同じ場所に帰って来なくてもいいです。サイクルの拠点に戻せばいいと。電車で来てこれに乗ってサイクリングしながら小金井公園などを周遊して、帰られる方はとても多いようにお見受けします。これも1つの大きな効果かと思っています。自転車を活用する。当然自転車ということは、小金井公園に行くまでにまちの中を間違いなく走ってくれますから、そういった方々をもっともっと増えていくというのも大事なことかと思っています。2点目の国際交流に関して申し上げれば、うどん会ですとか日本語スピーチコンテストですとか、行政

としてもさまざまな取り組みをしていますけれども、留学生の方々がもっと地域に溶け込むといいでしょうか、そういう取り組みをもっともっと進めていかなければいけないとは本当に思っております。

ご指摘のように留学生はととも増えています。特に東南アジア系の技術系の方々、エンジニアをめざす方々などは農工大工学部、法政工学部、教育者をめざしたいという方が多いです。東京学芸大学にもたくさん来られています。こういった方々ともっと地域でつながっていくという取り組みはとてもいいことだと思っています。特に教育の現場とか子どもたちと交流できる場があると、子どもたちにとってもいいかと思うし、そういう取り組みをぜひ考えてみたいと思っています。いろいろやっていたいただいていることもあるんです。国際交流NPOの方々、国際交流市民団体の方々がいろいろなお祭りに呼んで来てくれたり、フットサル大会に参加してもらったりやっています。2020年のオリンピック・パラリンピックも1つの契機だと思っています。貴重なご意見と思っただけでぜひ努力したいと思えます。

○司会

今、本市の観光資源であります小金井公園、江戸東京たてももの園、これを活かした地域の活性化ができないかというお話を1点いただいたかと思っております。2点目は国際交流についてです。こちらは市長の市政報告の方からもありましたけれども、市内の4つの学校、近隣2つの学校を含めまして、6つの学校と連携しているところです。そういったことも活かしながら進めていければいいのかなと思っております。これは今いただいた2つの意見に関しまして、何かご意見がある方いらっしゃいますか。今、マイクをお持ちします。

○市民D

前回たしか2年前ぐらいだったか、小金井公園でかつて3年前ぐらいは毎週毎週日曜日、フリーマーケットが開催されたんです。毎週毎週日曜日にやっていたんです。ところがあるとき3年前ぐらいか、急に1月に1回になっちゃった。だから、昔のように毎週日曜日必ずフリーマーケットやれば、小金井で一番元気のあるところは小金井公園のフリーマーケットなんです。これ以上の小

金井の勢いのある元気のあるところないんです。もったいないんじゃないかと言った。陳情まで出した。フリーマーケットはまたもとのように毎週やってくれと。そうしたら議員さんからあれは都と市民の間に業者がいると。業者がいるから非常に難しいんだと、結局、審議未了廃案で全然はしにも棒にもひっかからずに不採択になっちゃったんです。ということもあるし、さらに学校で市民が教えてもらう。あれは各大学の特徴があって学芸大は市民にとって非常にわかりやすい講義をやってくれる。農工大なんかは難しい。ものすごく難しい。農工大学の講義は普通の素人じゃわからない。私がばかなのかもしれないけど。あと東経大は敷地の一部は小金井市なんです。だから、東経大にも講義を聞きに行きました。東経大も難しい、みんな東大出た先生が引っこぬかれて東経大に来るから、えらい難しいです。一番いいのは学芸大の先生の講義です。先生方にご意見伺おうといったら一番市民にとって親しまれるのは学芸大のいろいろな講義が時々しばしばありますので、あれなんかも大概行くんです。そういうような日本の文化というのは、小金井の文化はああいう大学の先生にお頼みして、もっと庶民的な易しい講義をやってくれれば、多少なりとも老化防止にもなるんじゃないかと思ったんです。

○司会

大学の一般公開している講演会みたいなものなんですか。

○市民D

たまに町内の掲示板にあるんです。

○市民C

市報にもものっていますよ。学芸大で何やるとか、農工大は何やるとか、無料ですね。

○司会

ありがとうございます。先ほども申し上げましたとおり、学園都市としての側面も持ったまちでございますので、そういったものも市の魅力として今後活

用できればと思います。学芸大学さんについては、小学校の教員をめざす生徒さんなんかもうしゃる学校ですので、そういう意味では広くわかりやすい講義をされていて、農工大学というと農業、工業、専門的な分野のお話もされていると思いますので、そういったことをめざす方が聞く分にはきっとわかりやすいと思いますが、そういった側面もあるのかなと思っております。それでは、2ついただいたご意見の国際交流について、何かご意見のある方とかいらしゃいますでしょうか。市長のほうから何かございますか。

では、ほかにそれ以外のことで。

○市民A

私は実は国立で17年間、大学の中でミニコンサートをやってきております。それで今毎月5回ぐらい、ちょうどこの間85回を終わったところですけども、時々小金井駅おりますとジャズなんかやっています。あのときにたくさん本当に狭いさえない場所でやっているにもかかわらず、もういっぱい人が来て立って、あれを見たときにやっぱりみんな音楽好きなんだなということで、確かに宮地楽器のあれも意外に評判がよくて、結構都内にもいろいろな一流のところから来るようになっていきますけれども、市の中でコンサートをもうちよっと計画的にやったらいいんじゃないか。特に公園の中に建物があるでしょう。あれも僕からすればもったいなくて、あんな中でバイオリンなんかあればできるわけで、あれも使うとか、ジャズもいいし、普通のクラシックでもいいし、何かやれるんじゃないかと思ってます。実は私は大学同期の仲間でアンケート調査をこの間やったんですけども、何を一番やりたいという一番人気があったのは音楽だったんです。私は日ごろ皆さんがジャズを手をたたいたりしているのを見ると、やっぱりみんな音楽好きなんだなと思ってますので、それをやったら例えば小金井市はジャズの地とかありますけれども、音楽のまちにしたらもらったら、またそれも魅力ある小金井市になると思います。

○司会

今、音楽のまちにしたらどうかというご意見です。お話の中で小金井 宮地楽器ホールのことにも触れていただきましたが、小金井市の文化、芸術の拠点

としてつくった施設でございまして、特に音響設備にはこだわってつくった建物でございます。その辺も含めましてコンサート、音楽会というお話もいただきましたが、それについて市長のほうからお話しいただければと思います。

○西岡市長

今、市民の方々の潤いや安らぎを感じてもらったり、楽しいまち、住みやすいまちという中で、音楽の存在は大切だと思います。宮地楽器ホールは駅直近の文化ホールということで、これは小金井市の持てるとても大きな財産だと思います。ただ、大ホールの席の数がちょっと少ないのかというご指摘もいただくことや、とても人気があり過ぎてなかなか予約がとれないというご指摘もいただきます。それだけ市民の方々、市内外の方々にご活用いただいていると思います。宮地楽器ホールは魅力発信の拠点にもなりますし、宮地楽器ホールそのものも小金井らしさの1つの象徴にこれからなっていく。宮地楽器ホールという宮地楽器という名前はネーミングライツということで、宮地楽器さんから3年間の契約で、私たちは広告料をいただいて、宮地楽器という看板を使い、宮地楽器ホールさんのお名前がいろいろな新聞に出る、大変ご協力いただいております。大分定着してまいりました。今も今年で7年目をおかげさまで迎えます。まちなかの音楽です。ジャンルにもよるとも思います。もちろんトランペットをやってしまうと苦情が来たりしますけれども、管弦楽とか時間帯とかいろいろあるのかと思います。音楽のあるまちというのは、私はとてもいいテーマだと思っています。まちなかコンサートということもやっています。最近のはげの森美術館、これもとても小金井市の魅力ある場所なんですけれども、国分寺崖線、中村研一画伯、武蔵野夫人の舞台となった大岡昇平さんの住まいの近くだったと。そして、その裏側にははげの森カフェ、中村研一さんのお住まいになっていたご自宅、それから、その左側には茶室があります。で今、ここにはレストランがあります。はげの森カフェというところがあります。ここにはコンサートをやるようになっていきます。私も1回行きました。その場所、その建物、その土地と必ずしもマッチしなくてもいいと思いますが、その土地や風土を生かしたまちなかコンサートというのはとても魅力があるなと思いますので、今の大変大きなヒントになるかなと。ジャズフェスです。ジャズフェ

スは年に1回物すごい人が集まります。あれは小金井の武蔵小金井北口の若手商店街の方々の発案で誕生しまして、朝から夜まで2日間、ジャズ一色という感じでした。とてもたくさんの方が来ます。これもおもしろいと思います。特定するわけではないですけども、いろいろなジャンルの音楽が年間を通じて奏でられているまちというのはとてもいいなと思います。そんな意味も込めまして、今年は小金井市の歌も誕生しました。2曲誕生しましたので、多くの方に歌ってもらいたいなと思っています。

○市民E

ちょっと違うお話をしてもいいですか。せっかくこういう機会なので。

小金井の魅力ということで、先ほどから公園のお話が出ておりますが、私は南のほうに住んでいますので、どちらかというとな野川公園、武蔵野公園のほうに近いほうです。高校生と大学生の娘がおりまして、数年前にそちらでローズクのイベントがありました。すいません、こういう話はとっくに終わっているかもしれませんが、娘たちがどうしてもやらないんだろうねと、あれはとてもきれいだったのにねと言うんです。ろうそくをたくさん置いて、駅からの誘導、ある程度こうやって行ってくださいみたいなこともどこかに書いてあったと思うんですけど、あれは1回だけで終わってしまったみたいなので、私も行きましたし、ろうそくは野川公園のところにたくさん並んでとてもきれいだったのに、どうしてもやらなくなっちゃったのかなとずっと思ってたんです。なのでこんな機会もめったにないので、それを市の内外に魅力をとという意味では、イベントはとても大事かと思うのでそのことと、あとイベントという意味では阿波おどりもとても有名ですけども、私は南のほうなので府中の方の知り合いとかと話していたら、へえー、小金井でもあるんだって結構知らなかったりして、えっ、府中みたいなすぐ隣でも知らないんだなと思ってしまって、結構毎年、このところ暑過ぎるかなという時期なので、うちの娘たちも最初のころはちゃんと行ってたんですけど、ここ数年あまりに暑いので、ちょっと踊っている方も大変だろうなと思って難しいかもしれませんが、涼をとる方法とかもあったらいいのになと実は思っている部分もありまして、結構知られていないんだなという、ポスターをどうやって貼っているのかとか、近隣の

駅に貼っちゃいけないだろうとかちょっと思ったりして、ろうそくのことと阿波おどりのこともせつかくほかの市の方もすごく参加しやすいと思っていたのでお聞きできたらなど。

○司会

今、イベントについて2つのお話をいただきました。1つは50周年記念でやったキャンドルナイトのことかと思えます。もう1つは阿波おどりのお話です。先ほど開会の前に流していた動画の中でもイベント、ウォーキングフェスタというイベントをテーマにしたドラマを紹介しておりました。市の魅力を発信するためのPR動画でも取り上げているとおり、本市は割と大きなイベントがたくさんあるまちだとも思っております。それが今あまり知られていないんでないかというようなお話です。阿波おどりにつきましては特に市長のほうが詳しいかと思しますので、何かお話があればと思います。

○市長

今から10年前に小金井のキャンドルナイト、5,000人の方々があのイベントに参加された。私は当時東京都議会におりまして、実行委員会にも入り一緒になって準備をしました。私自身は南小、二中出身でして、ずっと野川の近くに住んでいる一人です。とてもすてきなイベントでした。あの当時はその日1日は電気を使わないでろうそくで過ごしましようなんていうのが割と世界的に流行っていたときもあります。キャンドルというものがとてもイベントで活用されていまして。あのキャンドルナイトは街路灯を消したりとか本物の火を使いましたので、警備の関係ですとかなかなか消防署の方々の感覚では、相当大規模なキャンドルナイトでした。もちろん消防署の方々もご理解いただき、ご協力いただきましたけれども、あれだけの規模を頻繁にやるとなると結構経費がいるんです。ただ一方で、あの電灯が実は今江戸東京たても園のライトアップのイベントで残されていまして、今度11月23、24、25、年に1回江戸東京たても園ライトアップ企画、夜間特別開園で夜たしか9時ぐらまで開けると思えます。とてもきれいです。物すごい方が集まります。そのときにあそこの広場にキャンドルを並べて、とてもきれいなデコレーションを

してくれます。これはそのキャンドルナイトの実行委員の方々がたても園と協力してやって、継続してそのレガシーが残されています。おっしゃるようにあのイベントはとても子どもたちがたくさん参加してきれいでした。もう一度再開をという声があるということ、今、私もしっかり開かせていただきましたので、何らかの機会、あれだけの規模は難しいかもしれませんが、復活できるようにいろいろと知恵を出していきたいと思っております。

小金井の魅力です。それともう1つ、阿波おどりです。そうですね、府中の方が知りませんですね。府中でよさこい祭りをして、三鷹でも阿波踊りやっていたりとか、高円寺は有名です。意外と知られていないかもしれません。小金井の阿波おどりは武蔵小金井駅では最大規模、今年も2日間で6万人です。小金井市内で最も人が集まるイベント、主催者発表の数字ですけれども、参加者人数だけで見ますと、小金井公園桜祭り、最大規模です。今年はお天気も桜の状態も見事にマッチングしまして、22万人来られました。私も今年も2日間行ったんですけれども、私も二十五、六年、ずっと毎年桜祭りを行っていますけれども、あんなにたくさんの方が集まったのは初めてです。旗の立っているお花見の会場に行きたいんですけど、どうやって進んでいいかわからないぐらい敷き詰められているような状態でした。

小金井の阿波おどりはとても魅力のあるイベントだと思っていますし、小金井の阿波おどりは地元連が多いのが特徴です。今、小金井市は19連です。これも非常に大きいです。多世代が楽しめる、ただし、おっしゃるとおり暑いんです。今年阿波おどりは40周年、小金井市は60周年だったので、宮地楽器ホール大ホールも演舞場になりました。大ホールにみんなでなだれ込んで踊って、また出ていくと。とても涼しいのでお孫さんのお姿を見たり、おじいちゃん、おばあちゃんがカメラを持ってあの中で涼をとりながらごらんになってました。これは実行委員会の方々のお考えになるんですが、一応実行委員会の方々もこれを継続したいと思っていられるようです。私もこれは協力したいと思っています。暑さ対策にもなりますし、演舞場が1つ増えるということは踊り手にとってもとてもうれしいことなんです。なので、とてもいいご指摘だと思ってまして、阿波おどりをもっと広げていただきたいということ、実行委員会の実行委員長さんはよく知っている方なのでしっかりお伝えしたいと思

います。

○司会

イベントの周知というお話、それから、その1つ前には音楽会というお話もいただいたところでございますので、私のほうから1つ宣伝をさせていただきたいと思います。今年度、年でいうと来年になるんですけれども、平成31年3月10日。3月10日というのは小金井市の平和の日ということで条例で制定されているところでございます。この条例に基きまして、3月10日を中心とする日に記念行事を行います。今年度につきましてはちょうど3月10日が日曜日になりますので、当日の3月10日に記念行事を行います。この日、午前中のほうは小中学生を対象とした作文コンクールの表彰式、表彰される作文の朗読、戦争体験者による体験発表などが行われます。午後からは先ほどお話しいただきました音楽会も開催いたしますので、詳細はもう少し近づいたらホームページ、市報等でご案内いたしますので、そちらのほうにもぜひ皆様ご参加いただければと思います。

後半のフリーテーマにもお時間を残したいので、そろそろこちらの魅力発信のほうのテーマを最後にしたいと思うんですけれども、今それぞれ玉川上水ですとか小金井公園、国際交流、今お話しいただいた音楽会などさまざま魅力についてお話しいただいたところですが、こういった魅力をどうやって今知らない市民の方々、市外の方々に伝えていけばいいかということで、魅力発信の方法について何かご提案のある方いらっしゃいましたら、お願いいたします。

○市民D

私は、たいがい、市でやる催し物は、自転車でも歩きでも掲示板があると必ず見るんです。市民の掲示板と町内会の掲示板と市の掲示板、3種類あるんです。市の掲示板は堂々と市の催しなんだから。市のいろいろな催し、掲示板の本町5丁目は私の管轄で、ポスターを各ブロック長さんに配るんですが、町内会がない地区があるんです。町内会自治会がない地区が小金井にはあるんです。そういったところにはどうやってポスターを貼るんだということでわからない。

私どもにはわからないので、そういうところは市のほうでお手数ですが、職員さんが町内会がないところにはポスターを貼っていただくとか、必ず掲示板を見ます。

○司会

ありがとうございます。情報の周知の仕方として掲示板というお話です。その中で町会、自治会がないところについての掲示板、市のほうで何とかしてほしいというご意見をいただいたところですが、私どものほうでは今3つ掲示板があるというお話をされましたが、その中の2つ、広報掲示板は市が主催する行事について貼り出しております。もう1つ、市民掲示板というのがありまして、こちらは市民の方々が自由に、一定のルールを守っていただいて貼っていただくという、3つのうち2つは市で管理している掲示板になります。それぞれおよそ100ずつ、大体市域のバランスを見ながら設置しているところがございます。もう1つ、ないところをどうすればというお話ではあるんですけども、逆にそういうところに町会、自治会がないところをつくらない。町会、自治会の加入促進も行政としてこれから力を入れなければいけないのかと思っているところがございます。この辺につきまして市長から何か。よろしいですか。では、ほかに何か。もしこれで市の魅力について内容、発信の方法、特にないようでしたら、フリーテーマに移らせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、これからフリーテーマということでご自由に発言いただいて、それについて市長がお答えするという形で進めたいと思います。

○市民B

それでは、先ほどお話しさせていただいた玉川上水について、まず私の考えを全てお話ししたいので、手元に紙を用意してきたので、それをちょっと読み上げたいと思います。玉川上水は国の名勝であったり、江戸東京の重要な歴史遺産であることを知っている人はいても、人に危害を加えるジャングルであるということを知らない人は多いと思っております。水路、緑道、五日市街道、上水桜通り、こういった周辺住民の日常生活を脅かし、通行そのものを危険にさ

らしています。ものが落ちてくるんです。自然派の個人の団体、いろいろな方がいらっしやいますけれども、市内の方もいらっしやいますし、市外からいっぱい来ておられる方もいらっしやるんですけれども、自然派の個人や団体といった人たちは、夏場の道路の表面温度を測定して、水道局の樹木伐採によって木陰がなくなった、暑くなったということで大騒ぎしたんです。実際そういうビラをつくって、政治関係の議員さんを巻き添えにして、まちなかにばらまいています。ところが、一旦雪が降ると路面凍結が木陰によって長期間解消できなくなっている。このことについては一切触れていないんです。五日市街道はジャングルに覆われています。また、上水桜通りというのが玉川上水の南側にあるんですけれども、そのさらに南側には住宅地がありまして、ここは建物は日陰を落としています。ですから、その日陰によってまた路面が凍結してしまうとそれが長期間解消できなくなるということを引き起こしているんですが、実はまだ問題があります。建物とジャングルが風通しを悪くしているんです。先ほど市長さんがおっしゃったように、伐採したら風通しがよくなり過ぎて困っているという意見もあったというお話なんですけれども、それは極端な話であって、実際には冬場、路面の凍結という問題は市民にとって非常に大きな問題となっています。氷結、凍結してしまうとそれを削りとることが非常に難しいんです。それをやる人手、誰がやるのかといたら、50、60、70のそれこそ年取った人たちがやるわけです。朝寒いところ出てきて、スコップでがち路面を削るわけです。そんなの簡単に削れないんです。例えばC o C oバスが上水桜通りを走ってまわりいます。踏み固めてしまうんです。わだちになって形が平らの通ったとおりの形がずっとそこに残るわけです。ところが、ほかの道路はといえば日が当たる、風が当たるからどんどん溶けてなくなっちゃうんです。ところが、上水桜通りだけいつまでたってもその状態が解消されない。そこを自転車で通学、通勤している人たちはたくさんいるわけです。先ほども小金井には大学、学校がたくさんあるというお話がありましたけれども、そこへ出入りしている子どもたち、あるいは学生さん、教職員の皆さん、どうやって通勤、通学してきているんですか。道路を使いますよねと言いたい。その道路の1つが上水桜通りなんです。

自然を守る人間というのは卑怯者なんです。冬場の悪いことは伝えないで、夏

場の自分たちにとって都合のいいことだけを伝えている。自分たちの都合の悪いことは一切触れないで、耳障りのいいことばかり発言して、何も知らない市民や市議会議員をたぶらかしているとは思っているんです。玉川上水には下水の三次処理水というのがなされています。一次というのは物理的に大きなものを、要するに重力に任せておけば沈殿して取り除けるものを一次処理水と言っています。汚いものは落ち、大きなものは取り除かれます。さらに二次処理水というのもあります。それは微生物なんかを使ったりして、人間が手を加えることによって、さらに沈殿物をつくって、水をきれいにする。さらに三次処理というのもあるんです。これはフィルターなんかを使って徹底的にろ過します。これはいろいろな方法があるんですけれども、それでも完全にろ過し切れていないんです。家畜のし尿や生活排水、農薬といったものが原因となって、リンとか窒素が取り切れていない状態で放流されているんです。そのために立川市のほうで行われているホタルの育成がうまくいっていないということが判明しています。これは前の稲葉市長がかかわったことでもあるんですけれども、稲葉市長がお話を小金井市の方に伝えた経緯があるんですけれども、そういったことで完全にきれいでないものが毎日どんどん流されているわけです。そういう水が流されていることについて影響評価しようとする自然団体の姿が一切ないんです。こういったところもおかしいと思いませんか。緑を残す、手を加えるな、切るなということばかり言っていて、水の水質のことについては一切触れない。偏っています。このホタルの育成なんですけれども、うまくいかないという原因究明においては三次処理水が温度の高い温排水だということを含めて行うべきだったと私は思っています。そういうことの視点が抜けているんです。水質のことだけを問題にしているんです。三次処理水の水温が自然の川よりも高いということは、水道局の境浄水場、そちらのほうでも温度が高いですということは把握はしていました。ところが、このことが桜の保存に悪い影響を与えていると認識する人は水道局にはおりませんでした。玉川上水は河川ではないから三次処理水の放水に対する環境アセスメント評価をしなくていいというような見解がもしあるんだったら、そういう前提条件を外して行動すべきだと私は思っています。これはお金の使い方として法律があるから環境アセスメント評価をしなければいけないんだという考え方にのっとってしまうと、玉

川上水がどうあれ、そんな安くはないんだというような考えになってしまうわけです。それは違うんじゃないかと私は考えたわけです。冬場の乾燥期になりますと、玉川上水の流れている水がにおいが漂っています。蒸発するんです。周囲の空気が乾燥しているから、水の流れから水分が蒸発しやすくなるんです。三次処理水のにおいが水辺から漂ってきます。三次処理水を流すようになってから、冬の乾燥期において小金井橋や新小金井橋などで洗濯洗剤の香り成分からくるにおいがするようになりました。洗濯しているときのあのにおい、おわかりになりますよね。あのにおいがまさに香ってくるんです、におってくるんです。冬の晴れた日の夜間や早朝に道路のカーブミラーをごらんいただくとわかるんですけれども、あの丸い鏡面、ガラス、視界がきかない、見えにくいところをよく見えるようにする、丸いカーブミラーがありますけれども、黄色いやつですね。そのカーブミラーを冬場の夜間や早朝に見てください。今まさにそれがわかるんですけれども、鏡が白く曇っています。これはどういう現象かおわかりになりますでしょうか。これらは周囲の湿度が高いことを意味しています。玉川上水から50メートル離れたところに立っているカーブミラーについては曇っていません。玉川上水の周辺に立っているものだけがそういう状態にあります。桜の樹皮、木の皮は普通はよろいのようなかたいものなんです。小学校の桜を見ていただくとわかるんですけれども、非常に成長していて木がかちかちにかたいんです。よろいに覆われているんです。ところが、玉川上水の桜は表面がぶよぶよです。湿気を帯びているんです。よろよろなんてものじゃないんです。普通、桜の木はよろいのようにかたく、外敵を侵入させないようにできているんですけれども、それは樹皮が乾燥していればの話なんです。絶えず湿り気にさらされていけば乾かないわけです。樹皮にコケやカビ、キノコが繁殖して桜の内部がむしばまれているんですけれども、これらにブレーキをかけることができていません。自然派は危険生物や外来生物、観賞魚、見るためのもの、コイのことです。水路内で繁殖しても何ら行動していません。この人たちは何もしないんですよ。在来種、この土地にあって当たり前の種類、植物や動物、そういったものが土着ではない国内種、要するに小金井以外のところから来たものです。そういったものと交雑、要するに遺伝子がまざり合う形、子孫を残す形で遺伝子汚染というものが起こっています。遺伝子汚染です。

これは生物を考える上で非常に重要な問題です。それに自然団体が何らかかわろうとしていないことを見ても、この人たちはやっぱりおかしいんです。こういった問題があるような生物を駆除しようと計画したり、資金を集めようとする動きもありません。玉川上水に近づいてくる自然派の人間たちは、ジャングルに手が入らなければ生物多様性というものに寄与できるものだと思い込んでいる節があります。動物が持っている感染症を放置したり、寄生虫の宿主を排除しようともしていない。農作物や家庭菜園、庭園における植物類の食害には目をつぶっています。私たちが指摘しても何ら対応しようとしていません。動物が人家に侵入しても自分の問題ではないと平気で言うわけです。例えば鳥はウイルスを運んできます。その排泄物はじかに落ちてきます。そういったものが拡散していても無関心なんです。例えば鳥インフルエンザ、要するに鳥というのは危険なんです。羽村堰に舞い込んできたと思われるような奥多摩や多摩川の野鳥がいます。そういった人たちはそれを見て喜んでいるわけです。自然に会えたというところで。ところが、玉川上水のジャングルに住みついたカラスに襲われているわけです。実際メジロなんかもつつかれて目玉をくり抜かれているわけです。先ほど出てきた樹木医、市長のお話もあったと思うんです。この方々も偏っているんです。というのは、間違っただけのおそれがある。この方々は桜を残す、あるいは植物を残すそのことだけしか考えないんです。切ることについては直接考えたくない人たちなんです。だから、どうしようかなとなったときは残す方向に考え方が倒れちゃうんです。そのことによって不安全的な状態になるんです。切ってしまうと安全の確保ができるのに放置されるわけです。見逃されるわけです。樹木医はジャングルで傷む桜を伐採しようとしなから、上水桜通りで倒木事故が発生しています。私はその現場を写真に撮って水道局に渡しています。東京都教育庁にも渡しています。そういう事例が実際発生しているんです。桜町の話です。ジャングルを伐採、剪定すればこうした不具合をなくすることができる可能性もあるわけです。平成24年になりますけれども、玉川上水サミットというイベントが行われました。小平市の主催です。その中で玉川上水が流れるまちの区長、市長が登壇して、それぞれの考えを表明されているんですけれども、その方々の発言の中に緑とか自然とかおかしなことばかり出てくるんです。市長、市職員、市議会議員におい

ではこういった諸問題の解決に事業資金やポケットマネーを出せないんだったら、東京都水道局がやろうとしている伐採、剪定に口を出さないでいただきたいんです。

自然派の言いなりにならないことを肝に銘じて公務を全うしていただきたい。それが私の考えなんです。実際、ここにサミットから送られた各市長、区長さんのお話が載っている報告書がございます。インターネットでダウンロードできますけれども、この中におかしな発言があります。これは市長の考え方というのは、あくまでも個人の考え方もあるんでしょうけれども、自然団体などに影響されている節があります。それはどういうことかということ。

○司会

そろそろご意見をまとめる方向にお願いいたします。

○市民B

わかりました。玉川上水を川だと思っているんです。緑があって当たり前、そういう方々なんです。以前、玉川上水をとめて流れが一時なくなったことがあるんです。涸れちゃったことがあるんです。それを清流を戻そうとして戻したんだけど、それによってコイが増えた。この報告書の中で手離しで喜んでるんです。ところが、この写真を見るといろいろな色のニシキゴイが、要するに観賞魚が増えたと言って喜んでるわけです。この考えの発端は誰なのかということやっぱり個人だけではないだろうかと、私は思います。ミスリードしてほしくないんです。先ほどの最初の問題点で私は触れましたけれども、まちの魅力などを語るときにはミスリードは許されない。そのことによって市民が迷惑する、あるいは禍根を残すことになる。それは20年、30年先に大きな問題となるおそれがある。そこだけはしっかり押さえていただきたい。私の考えは以上です。

○司会

これに関して市長のお考えはいかがでしょうか。

○西岡市長

多岐にわたってさまざまなご意見をいただきました。私の基本的な考え方は冒頭申し上げましたように、玉川上水・小金井桜整備活用計画を東京都と地元自治体とで、また市民参加、市民協働という観点とも考えていただいて、つくり上げていただきました。まずこの方針をしっかりとこの計画に沿って対応していくということ。それから、時間が残り10分しかなくちゃったので、あまり長くは語れませんが、先ほど申し上げましたように、私としてめざしている小金井の市域の中における玉川上水の姿というのがあります。これを私としては一生懸命めざしたい。そして、小金井桜生誕300年というのがあと20年後に来ます。桜の生育は本当に時間のかかるものです。先ほど樹齢の話が出ました。ソメイヨシノは大体60年程度です。ヤマザクラはさまざまです。今、小金井桜で最も長生きしている桜が150歳とされています。まだ元気です。花も咲きます。20年後たったときに、桜誕生300年というときに小金井市としてあとさらに50年、その先100年残していける環境を私たちは今つくる必要があると思っていますので、今のBさんと全てのご意見が一致するかどうかはわかりませんが、少なくとも今、私がめざしている姿というのは決してミスリードというものではないと。後世にしっかりと残していける環境をしっかりとつくっていきたいと思っています。

○司会

残り時間わずかですので、今まで意見されていない方でもし、いらっしゃればどうでしょうか。

○市民F

Fと申します。本町〇丁目に住んでおりますFと申します。いつも市長と語る会、行事に参加しておりますが、いろいろな行事に参加しておりますが、小金井に住んでもう20年になりますけれども、あまり仕事の関係で日曜日も時間がないので小金井の中を散策とか歩いたりしていません。この市長と語るフリートークのときに市民の皆さんの小金井の桜がきれいだとか、何かお祭りがあるんだとか、阿波おどりがあるとかいろいろなお話を聞かせていただきまし

た。水がきれいということも前に聞いたのは、ホテルです。ホテルが野川に、だから、夜はホテルの光がきれいなんだということ、ぜひ行ってみたいと思って今情報をもらって、今度行ってみたいなと思いました。小金井公園に何かあるのでしたら行ってみたいですし、今度、薪能というのがある、それにも行ってみたい。皆さんから情報ももらっていろいろ行ってみたいなと思っておりますので、こういう会に参加して、情報をいただいて本当にありがたいと思っています。それでやはり今後、小金井の場合には、桜もきれいですけれども、市役所も今度建設されます。新しい市役所、福祉会館も市役所も両方つくられる。そのことに関してもこれからいろいろPRなりしてみんなに小金井はごみ問題とかいろいろある、大体友達はみんなそういうふうにするんです。あまりみんながいいイメージを持っていないようなんです。でも、これからそういう新しい施設が建てば、役所とか福祉会館などが完成すれば、みんなから人気になるのではないかと思っています。そして、それはとてもありがたいことです。いつも思うことは、小金井の市民の皆さんは心が優しい。そして、お店、小金井公園に行くまでの間にお店がないという本当に私も残念です。いつも歩いていて何か寂しくなってしまう。ハイキングとか行ってもいつもいつもちょっと物足りない感じがします。いいお店があればいいなと思います。市民の皆さんがとても優しいのでそれもPRしてほしいと思います。どうもありがとうございます。

○西岡市長

いつもありがとうございます。小金井は魅力がたくさんあります。人が優しいということを知っていただきました。とてもうれしいです。小金井市に越してくる方、私も全員と会えるわけではありませんけれども、先日もこの60周年記念で市民の公募で選ばせていただいた、市民投票で選んだんですが、この桜のロードマップ、そして、今年の私たちのスローガンが『さくら咲くえがお咲くまち小金井市』。こういうすてきなキャッチコピーをつくってくれました。このキャッチコピーをつくってくれたのは、若いお母さんで、「最近越してきました。子どもも産みました。小金井の人は温かいです、優しいです。」ということを知っていただいて、「私が小金井市に住んだ思いをこの言葉にしまし

た。」と言ってくれました。とてもうれしかったです。それから、桜のことですとかいろいろなことを言ってくれました。小金井のいろいろな場所をもっと歩きたいですというご意見です。歩いて楽しいまちにしたいと思います。また、小金井駅から小金井公園までもっと魅力ある店をとというご意見いただきました。おいしいケーキ屋さんですとか、すてきなお花屋さんですとかお店はあるんですけれども、もっとたくさん欲しいと。これからまちづくりをどう進めていくかというときに、歩いて楽しいまちというのをめざしていきたいと思っています。小金井市は4キロ・3キロというコンパクトシティですけれども、ちょうどこれは最近の空から見た小金井市です。小金井市の配置はすごくよくできているんです。東西4キロ、南北3キロ。大体自転車でどの方向にも20分以上走ると大体市域を出ちゃいます。坂もあります。そして、線路の北側には玉川上水、小金井公園、小金井カントリークラブ、南のほうに歩いて行くと野川、武蔵野公園、野川公園、多磨霊園、市内各所に大学や公園があって、小金井は住宅都市、住むまちです。私がめざしたい小金井市の1つの姿は、子育て、子育て、教育にとっても力を入れているまちにしたいと思っています。先ほどごみの問題で小金井は有名とか、その昔はあかずの踏切、その昔は財政がなくて退職金を借金にしなければいけないとか財政悪化のまちとかとてもつらい時代がありました。これからは本当にそういった課題、同じような課題を発生させることなく、いいまちになるように皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思っています。課題山積ですけれども、一生懸命頑張ります。

○司会

薪能の宣伝は大丈夫ですか。

○西岡市長

そうですね、薪能、ぜひ見に来てください。今年は40周年で津村禮次郎さんという方が40年前に薪能を生み出しました。津村先生と市の歌を作詩してくださった林望さんという方、お二人が小金井の薪能を誕生させました。すばらしい企画です。運営は全部市民がやっております。プロが入ってないです。私もその実行委員会のメンバーでもう25年間ぐらい運営しています。今年は

狂言の野村萬齋さんが来たんです。野村萬齋さんはオリンピック・パラリンピック開会式、閉会式、総合プロデューサーに任命された後で来たので、とてもチケットが売れまして、もう席は満席、そして、野村萬齋さんの狂言はやっぱりおもしろいですね。今、三部作になっています。伝統的な能、狂言、そして創作ダンス、能とバレエとかいろいろなことをやっています。とても人気がありますので、来年も開催しますからぜひ見に来てください。

○司会

閉会時間がかなり迫っておりますので、短目にご意見をお願いします。

○市民D

雪かきとか湿気の話が出た。私も北大通りに面したところに家がありますので、北大通りにはご存じのとおり歩道があります。雪が降ると確かに雪が積もって雪をかかなきゃならない。ところが、雪が降ると大体天気予報と時刻を見て、本当に雪が降ったらこっちも必死です。だから、雪がアイスバーンになってかたまらない時刻を見計らって、大体これぐらい降っちゃえば大体3時ごろにやむなと思ったら、大体2時ごろ雪をかいちゃうんですよ。最近はまだ歳だから、私も73だから歩道全部をやれない。ただ、自転車は安全に通れるところだけかいて、独居老人だから、それぐらいしか私はできない。まちの人だって雪が降るといのは情緒があると解釈して、雪かきは江戸時代から情緒があったわけでしょう。そういう情緒というものを外人にはわからない。アメリカ人に聞いたら、アメリカだってそういう思想はあるんだと。インディアンが月見、雪見、花見、インディアンはそういう情緒はあるけど、西洋人はわからない。西洋的な考えが相当入っていると思うけど、落ち葉が落ちてきたら掃けばいいじゃない。玉川上水の雑木林がいっぱいあると。これは伐採するにしてもお金がかかるんです。人件費がかかる、手間賃がかかる、だからできない。予算があればあつという間にケヤキは倒せます。そこがあるんじゃないかと思います。

以上です。

○司会

それでは、お時間となりましたので、まだお話が足りない方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう方につきましては11月24日土曜日午後2時から萌え木ホールでまたこの同じ催しがございますので、そのときにお越しただいてお話しいただければと思います。それでは、最後に市長より一言申し上げまして、終了とさせていただきます。

○西岡市長

今月は6回にわたります市民の方々の意見交換でございました。この夜の9時までご参加いただきましてありがとうございます。

最後に小金井の魅力だけお伝えしたいのは小金井の人です。たくさんの12万人住んでいます。一人一人がもちろん輝く市でなければいけません。そして、小金井市にはとてもすてきな活動をしている人たちがたくさんいます。とりわけ名誉市民という方がいらっちゃって、有名なスタジオジブリの宮崎駿監督、もう残念ながら旅立ってしまいましたが、日本の作詩の大家・星野哲郎さん、数々の演歌をつくられました。そして、今度新しい名誉市民に60周年では作家の黒井千次さん、天皇陛下に呼ばれて、今年皇居で歌を詠まれたとか、日本芸術院総裁。そして毛里和子さん、日中関係の権威。この方も皇室にお呼ばれて、天皇家にご講義をされた、すばらしい方ですね。そして、こんなにたくさんの方々の観光大使の方がいらっちゃって、皆さん第一線ですごい活躍されている方々。そして、小金井市の宣伝、PRを一生懸命してくださっている強い味方です。私がめざしているのは市民一人一人が観光大使になってほしいなと思っています。それぞれが思い思いに小金井の魅力を何か1つでもこれだけと決める必要もない。売りは必要だし、みんなで共通する、共有する情報も必要ですけれども、でもそれぞれの思い思いの小金井のよさをたくさん伝えてほしいなと思っています。こんなに観光大使はたくさんいらっしゃるんです。この中からオリンピック・パラリンピックの選手もきっと誕生すると思います。ぜひ観光大使がこんなにいるということをお覚えていただければと思います。

今日は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。

○司会

以上をもちまして、平成30年度第3回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。アンケートにつきましては退出の際、回収いたしますのでご協力のほど、よろしくお願いいたします。